

大学等名	相模女子大学
プログラム名	全学共通科目 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

--

③ 修了要件

「数理の科学」(半期2単位)・全学共通科目必修の「コンピュータリテラシー」(半期2単位)及び選択必修の「データサイエンス」(半期2単位)・「AIと社会」(半期2単位)の修得をもって、プログラムの修了要件としている。「数理の科学」「コンピュータリテラシー」「データサイエンス」「AIと社会」の内容は「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム」(数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)に準拠しており、**各回、対面形式で開講するとともに**、授業支援ツール(LMS)を用いて事前・事後学修の支援をしている。

必要最低科目数・単位数	1 3 科目	2 6 単位	履修必須の有無	令和9年度以降に履修必須とする計画、又は未定
-------------	--------	--------	---------	------------------------

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

[illegible]

⑤「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの の内容を含む授業科目

[illegible]

⑥「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

[illegible]

⑦「活用に応じた様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

[illegible]

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
数理の科学	2	○	○	○	○						
コンピュータリテラシー	2	○		○	○						
データサイエンス	2	○	○	○	○						
AIと社会	2	○									

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
数理の科学	4-1統計および数理基礎		
データサイエンス	4-1統計および数理基礎		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	<p>・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたもののみ方(1回、3回)</p> <p>この科目の初回に導入として、データを起点としたものの見方について、数理・データサイエンス・AIを学ぶ必要性を伝える。また、確定的に考えるのではなく、確率的に考える事を学ぶ。(1回、3回)</p> <p>「第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会」</p> <p>・情報化社会、コンピュータとインターネットの仕組み(【コンピュータリテラシー】第2回): 第4次産業革命とSociety5.0の理解を深め、データ駆動型社会の実現に向けた課題や可能性について考える。</p> <p>「データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方」</p> <p>・データサイエンスとは何か(【データサイエンス】第1回): 現代社会におけるデータサイエンスの重要性及び、データを起点としたものの見方について、数理・データサイエンス・AIを学ぶ必要性を理解する。</p> <p>「ビッグデータ、IoT、AI、生成AI、ロボット」</p> <p>・AIと社会の関係(【AIと社会】第1回): AI技術とは何か、そして現代社会における役割と可能性について概観する。</p>
	1-6	<p>・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など)(15回)</p> <p>この科目の最終回では、それまでの内容をAIや機械学習との関係からまとめ、AI最新技術の活用例の動向を紹介する。(15回)</p> <p>「AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど)」</p> <p>・現代社会におけるAIの利活用(【AIと社会】第11回): AIを活用する社会のあり方について実例などを交えながら検討する。</p> <p>「AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)」</p> <p>・AI 技術と未来への展望(【AIと社会】第14回): AIによって未来の社会はどのように変貌するかを予測し、よりよい社会にするにはどうすべきかを考える。</p>
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	<p>・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど(2回)</p> <p>社会で活用されている調査データや機械の稼働ログデータから、確率(離婚率や故障率など)がどのように算出されているか学ぶ。(2回)</p> <p>「調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど」</p> <p>「構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)」</p> <p>・データの種類、尺度水準(【データサイエンス】第3回): さまざまな方法で収集されるデータを知り、データの性質に応じた分類(定性・定量データ)や、測定尺度(名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比率尺度)を理解し、適切に分析するための基礎を学ぶ。</p>
	1-3	<p>・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)(11回、12回)</p> <p>・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど(11回、12回)</p> <p>・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など(7回)</p> <p>仮説検証の基礎となる背理法と帰無仮説について学ぶ。(7回)</p> <p>販売、マーケティングにおいて、広告費を増額すると売上高がどうなるかという事例からデータ・AI活用領域の広がりを学ぶ。(11回、12回)</p> <p>「データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)」</p> <p>・データサイエンスとは何か(【データサイエンス】第1回): 現代社会におけるデータサイエンスの活用について知り、数理・データサイエンス・AIを学ぶ必要性を理解する。</p> <p>「仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など」</p> <p>・推測統計: 統計的仮説検定の考え方 (【データサイエンス】第10回): 統計的仮説検定の考え方について学ぶ。</p> <p>「対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など生成AIの応用」</p> <p>・生成AI(【AIと社会】第6回): 生成AIの技術的な背景と利活用、および社会的な影響について説明する。</p>

(3) 様々なデータ利用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることによって価値を創出するもの	1-4	<p>・データ解析：予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など(6回)</p> <p>天気図の予報円を例に、標本データから母集団の特性を予測する方法について学ぶ。(6回)</p> <p>「データ解析：予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション・データ同化など」</p> <p>・推測統計：推測統計の考え方、推測統計：区間推定(【データサイエンス】第7回、第8回)：測統計の基礎的な考え方を理解し、母集団の性質を推定する方法として区間推定について学ぶ。</p> <p>「データ可視化：複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など」</p> <p>・グラフ作成とデータの可視化、データ集計(【コンピュータリテラシー】第7回、第11回、第15回)：データに適したグラフの種類と選択と作成方法、データの可視化について学ぶ。</p>
	1-5	<p>・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介(8回)</p> <p>工場で製造される製品の精度の評価について学ぶ。(8回)</p> <p>「教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介」</p> <p>・生成AI(【AIと社会】第6回)：生成AIの活用事例を紹介する。</p> <p>・現代社会におけるAIの利活用(【AIと社会】第11回)：AIを活用する社会のあり方について各分野の実例などを交えながら検討する。</p>
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<p>・データ倫理：データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護(15回)</p> <p>・データ・AI活用における負の事例紹介(15回)</p> <p>データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護など、データ倫理について学ぶ。(15回)</p> <p>データ・AI活用における負の事例紹介を取り上げ、データ・AI活用の限界について学ぶ。(15回)</p> <p>「AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)」</p> <p>・AIの公平性と透明性、AIと人間らしさ(【AIと社会】第5回、第10回)：AIにおける公正性の確保と透明性の重要性を検討し、さらに、AIと人間らしさについて、心理学的哲学的側面から検討する。</p> <p>「データバイアス、アルゴリズムバイアス」</p> <p>・アルゴリズムと倫理(【AIと社会】第7回)：アルゴリズムが生み出すバイアス(偏見)、差別、プライバシー侵害などの問題点について検討する。</p> <p>「データガバナンス」</p> <p>・AIガバナンス、AIとリスクマネジメント(【AIと社会】第12回、第13回)：AIを社会で活用するうえで、そのガバナンスをどうすべきか考え、AIによってもたらされるリスクとその対応、そしてAIを活用する上での責任について考える。</p> <p>「生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など)」</p> <p>・生成AI(【AIと社会】第6回)：生成AIの限界、ハルシネーションなどについて知る。</p>
	3-2	<p>・情報セキュリティ：機密性、完全性、可用性(15回)</p> <p>・情報漏洩等によるセキュリティ自己の事例紹介(15回)</p> <p>情報セキュリティについて学ぶ。(15回)</p> <p>情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介を通じて、データを扱う上での注意点について学ぶ。(15回)</p> <p>「情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)」</p> <p>コンピュータとインターネットの仕組み(【コンピュータリテラシー】第2回)：情報社会におけるセキュリティについて学ぶ。</p>
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)	2-1	<p>・データの種類(量的変数、質的変数)(13回、14回)</p> <p>・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)(2回、4回)</p> <p>・観測データに含まれる誤差の扱い(14回)</p> <p>・相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)(10回)</p> <p>・母集団と表法抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)(5回)</p> <p>・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列(13回、14回)</p> <p>データの種類(量的変数、質的変数)について学ぶ。(13回、14回)</p> <p>データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)について学ぶ。(2回、4回)</p> <p>チョコレートの消費量とノーベル賞の受賞数を例に、相関と因果(相関計数、疑似相関、交絡)について学ぶ。(10回)</p> <p>街頭アンケートを例に、母集団と標本抽出について学ぶ。(5回)</p> <p>健康診断の有無により、医療費が節約できるかクロス集計表で評価することを学ぶ。(13回、14回)</p> <p>観測データに含まれる誤差の扱いについて学ぶ。(14回)</p> <p>「データの種類(量的変数、質的変数)」</p> <p>「データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)」</p> <p>「代表値の性質の違い」</p> <p>・記述統計：尺度水準、代表値(【データサイエンス】第3回)：データの性質に応じた分類(定性・定量データ)や、測定尺度(名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比率尺度)を理解し、適切に分析するための基礎を学ぶ。さらに、データの特徴を知るための指標として代表値を知り、平均値、中央値、最頻値の求め方とその違いをよく理解する。</p> <p>「データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値」</p> <p>記述統計：散布度(【データサイエンス】第4回)：データのばらつきを知るための指標として散布度を説明する。範囲、分散、標準偏差の求め方を理解する。</p> <p>「相関と因果(相関係数、疑似相関、交絡)」</p> <p>記述統計：相関(【データサイエンス】第12回)：2つの変数の関係性を示す指標として相関係数の求め方について学び、相関係数の読み取り方を理解する。</p>

を用い、演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用に関するもの	2-2	<ul style="list-style-type: none">・データの比較(条件をそろえた比較、処理前後での比較、A/Bテスト)(9回)工場での製品生産の精度を例に、データの比較について学ぶ。(9回)データの比較においてRCTの重要性について学ぶ。(9回)グラフとしてデータ表現することで、外れ地を発見する。(10回)「データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ、箱ひげ図)」・グラフ作成(【コンピュータリテラシー】第7回): データに適したグラフの種類と選択と作成方法、データの可視化について学ぶ。・Excel 基礎(【データサイエンス】第2回): 表計算ソフトを用いて、散布図や箱ひげ図の作成方法、見方など、統計を学ぶ上で必要な知識、技能を学ぶ。「データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)」・推測統計: 統計的仮説検定の考え方と推測統計:t検定(【データサイエンス】第10回、第11回): データの比較においてRCTの重要性について理解し、2群の平均値を比較するt検定について学ぶ。「相手の的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど)」・情報収集とデータ分析、整理と表現(【コンピュータリテラシー】第12回～第15回): 情報を収集し、分析し、整理して、スライドにまとめる総合的な活動に取り組む。
	2-3	<ul style="list-style-type: none">・データの集計(和、平均)(2回)・データ解析ツール(スプレッドシート)(2～14回)データの集計(和、平均)について学ぶ。(2回)データ解析ツール(スプレッドシート)を用いた演習に取り組む。(2-14回)「データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)」・Excel 基礎(【データサイエンス】第2回): 表計算ソフトにおいて分析を行うためのデータの作成・表記方法を知る。「データの集計(和、平均)」・表計算ソフトによる計算式と関数(【コンピュータリテラシー】第7回、第9回、第10回): 表計算ソフトによる計算や関数の利用について修得する。「データの並び替え、ランキング」・データ集計(【コンピュータリテラシー】第11回): 表計算ソフトを用いたデータの並び替えや抽出、ランキングなどの方法を学ぶ。

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

ICT(情報通信技術)やAI技術の急激な発展・普及に、正しい知識を持って対応できるようになる。データに基づいて現状を理解でき、新しい価値を生み出すための基礎として、「データを適切に読み解ける」、「データに基づいて適切に説明できる」、「データを適切に扱える」能力を身に付ける。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に伺うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
該当なし

大学等名 相模女子大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 132 人 (非常勤) 272 人

② プログラムの授業を教えている教員数 26 人

③ プログラムの運営責任者

(責任者名) 中林 正身 池田 仁人

(役職名) 副学長(教育担当)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

共通教育機構運営委員会

(責任者名) 中林 正身 池田 仁人

(役職名) 共通教育機構長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

相模女子大学共通教育機構規程

⑥ 体制の目的

学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成すること、並びに、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を推進することを目的とする。

本プログラムは、学生が数理・データサイエンス・AIに関心を持ち、適切に理解し、専門分野での実践的なデータ活用能力を育成することを目的とする。単独の科目として完結するのではなく、各学科の専門教育と体系的に連携し、学際的な視点からの課題解決能力を養う。具体的には、メディア情報学科や社会マネジメント学科における社会調査、人間心理学科における心理学実験・調査、管理栄養学科や健康栄養学科における栄養統計学と接続し、データ収集・解析・可視化・統計的推論などのスキルを体系的に習得できる学習設計を行っている。また、本学が強みとする地域連携活動を活かし、自治体や地域企業との協働による実践的なデータ分析プロジェクトを実施し、実社会の課題解決に貢献できる人材を育成する。これにより、データサイエンスの知識を学内にとどめず、社会実装へと展開するための実践的な機会を提供し、学生がデータ駆動型の意思決定を行える能力を身につけることを目指す。

⑦ 具体的な構成員

中林 正身(機構長・副学長(教育担当)・学芸学部英語文化コミュニケーション学科教授)

池田 仁人(機構長・副学長(教育担当)・子ども教育学科教授)

石上 正也(副機構長・学修・生活支援課長)

加藤 由樹(情報教育系列部会長・学芸学部メディア情報学科教授)

後藤 和宏(自然科学系列部会長・人間社会学部人間心理学科教授)

伊東 俊彦(人文科学系列部会長・人間社会学部人間心理学科教授)

小泉 京美(社会科学系列部会長・学芸学部英語文化コミュニケーション学科教授)

湧口 清隆(社会科学系列部会長・社会マネジメント学科教授)

上條 美和子(語学教育系列部会長・学芸学部英語文化コミュニケーション学科教授)

笹田 周作(健康教育系列部会長・短期大学部食物栄養学科教授 健康栄養学科教授)

富田 充保(教職課程部会長・栄養科学部健康栄養学科教授)

松永 幸子(教職課程部会長・英語文化コミュニケーション学科教授)

金井 喜一郎 宮原 志津子(司書課程部会長・学芸学部日本語日本文学科教授)

渡辺 幸倫(さがみ総合講座運営委員会代表委員・学芸学部英語文化コミュニケーション学科教授)

大村 正史(短大代表・短期大学部食物栄養学科教授)

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	1%	令和6年度予定	15%	令和7年度予定	25%
令和8年度予定	35%	令和9年度予定	50%	収容定員(名)	3,676

具体的な計画

本プログラムの目標達成に向けた学生のプログラム履修促進及び、数理・データサイエンス・AIを理解する必要性の認識を広げるため、学生への周知に努めている。

2023年度は、初年度という事もあり1クラス展開(秋学期のみ)で開講したが、2024年度は春学期・秋学期に2クラス展開として実施する。また、昨年度に引き続き広報にも力を入れ、より多くの学生が履修するように促していく。

2025年度の全学共通科目のカリキュラム改定では、より本プログラムの内容に即した科目(「データサイエンス」「AIと社会」等)を設置し、引き続き履修者増加を目指し、対策を進めていく。

2025年度から開始される新カリキュラムでは、リテラシーレベルのデータサイエンス教育をさらに充実化し、全学生がデータサイエンス・AIの基礎を体系的に学べる仕組みを構築した。さらに「データサイエンス」「AIと社会」を選択科目として設置することで、学生に段階的な学習機会を提供することができるようになった。

この改定の目的は、学生が必修科目としてコンピュータリテラシーを履修することで、情報処理の基礎を身に着けるだけでなく、選択科目として開講されている「データサイエンス」で、統計・機械学習・データ可視化の実践的なスキルを習得し、「AIと社会」で、AIの社会的影響、応用事例、法制度・倫理の観点も学ぶことを周知する機会を設けたことである。

さらに、この新カリキュラムでは、企業・自治体との連携事業である「さがみ発想講座」および、その成果を発表する「さがみ発想コンテスト」において、データサイエンスを活用した問題解決を実践する機会も提供していることを周知し、履修率の向上に務める。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるよう、全学共通科目の選択必修科目として開講しており、卒業単位に含むことのできる科目である。

学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるよう、コンピュータリテラシーは全学共通科目の必修科目として、データサイエンスおよびAIと社会は選択必修科目として開講しており、卒業単位に含むことのできる科目である。

さらに、受講機会を最大限確保するために、「コンピュータリテラシー」はLMS(学習管理システム)を活用したオンデマンド学習支援を提供し、時間割の制約がある学生や、専門科目との両立が求められる学生でも、柔軟に取り組める環境を整備している。「データサイエンス」や「AIと社会」は春学期・秋学期の両方で開講し、学生の履修選択の幅を広げることで、学修機会を増やしている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

オリエンテーション実施時に、チラシを作成して配布する。また、学内に掲示を貼り、学生の認知度を高める。合わせて、本学のポータルサイトを用い、全学生宛てに広報連絡を実施する。2024年度の履修者数増加に向け、教授会などでも周知し、専任教員による履修相談や、情報系教員の授業等において、学生に本プログラム対象科目の履修を勧めてもらうよう、情報系に限らず全ての教員に周知し、協力を依頼していく。

本学の全ての学生が1年次春に受講する「さがみ総合講座」の第11回では、「データサイエンス」および「AIと社会」を担当する教員が登壇し、「大学での授業の受け方(4)～データサイエンスの活用について～」と題した本プログラムの導入授業を実施する。本講義では、データサイエンスの基礎やAIの社会への影響について解説するとともに、「データサイエンス」および「AIと社会」の授業内容を紹介し、履修の推奨を行う。更に本プログラムの履修者数を増やすため、全学共通科目の必修科目「コンピュータリテラシー」の授業内でも本プログラムを周知する。

授業期間開始前に開催されるオリエンテーション時には本プログラムのチラシを作成・配布する他、本学のポータルサイトやデジタルサイネージを活用して認知度を高める等様々なアプローチをおこなっていく。

また、本プログラムが、さがみ発想講座や発想コンテストを通じて、データサイエンスを活用した問題解決に不可欠であることを周知する。さらに、教授会を通じて全教員に情報を共有し、専任教員が学生に直接履修を勧められる体制を整える。特に、情報系教員だけでなく、データサイエンスの応用が期待される社会科学系・自然科学系・人文科学系の教員にも協力を依頼する。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

学期開始前に実施する各学科のオリエンテーション資料としてチラシを配布し、全学生の目に触れるよう広報を実施している。

また、学生が授業のすきま時間に立ち寄れる自習室にも広告を掲示し、学期中を通じて広報する。学修相談デスクのあるラーニングcommonsでは、定期的に「履修説明会」や「体験セッション」を開催し、先輩履修者が実際の学習内容や活用事例を紹介する機会を設ける。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業支援ツール(LMS)に、授業で使用する資料(動画資料も含む)、演習課題を置いて、授業時間内だけでなく、授業時間外の事前・事後学修がいつでもどこでもできるようにしている。さらに、履修者全員が閲覧可能な掲示板や、一人ひとりの学生に対して個別に指導ができる個別指導コレクションと呼ばれるLMS上の機能を用いて、学生から質問や相談を受け付ける仕組みもある。

加えて、理系の大学院生をティーチングアシスタントとする学修相談デスクを設置し、学生が個別あるいは少人数のグループで自分では解決できない問題について、常時相談することができるようにしている。

シラバス

授業科目名	コンピュータリテラシー A				
科目区分	共通科目				
必修・選択区分	必修			単位数	2
開設学科	全学共通科目（大学） / メディア情報学科2025				
学年	1 年生	学期	春学期	開講年度	2025
担当者	今井 さやか				

授業の到達目標	日常生活および学生として活動する上で必要とされるコンピュータリテラシーの習得を目標とする。具体的には、1)学内のコンピュータ環境の利用方法を知る、2)インターネットに関する基礎的な仕組みを理解する、3)文書・レポートの作成、データの集計および発表資料の作成に関わる文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な操作方法を身に付ける。
---------	---

授業概要	この授業では毎回、インターネットに接続されたパソコンを使った演習を通して、情報社会で不可欠なICT活用の基礎を習得する。具体的には、タイピング練習から始めて、コンピュータ、インターネットの基礎知識やブラウザを使ったWeb上の操作を学び、Microsoft Word（文書作成）、Excel（表計算）、PowerPoint（プレゼンテーション）の基本的な機能を使った演習を行う。
------	--

授業計画		各回の授業概要	AL	学びのポイント
	1	ガイダンス：情報処理室の使い方、OSの基本操作、タイピング練習の仕方		タイピング練習ができる。ファイルの保存ができる。
	2	コンピュータとインターネットの仕組み		大学の電子メールが使える。
	3	文書作成(1)：文字入力、文字の修飾		MS-Wordの基本的な操作ができる。
	4	文書作成(2)：段落、拡張書式		MS-Wordの拡張書式が使える。
	5	文書作成(3)：罫線と図形描画		MS-Wordの表の作成および図形描画ができる。
	6	文書作成(4)：総合的な文書の作成		MS-Wordを利用した文書作成ができる。
	7	表計算(1)：表計算の基本機能、計算式、グラフ作成		MS-Excelで計算式が使える。グラフを作成できる。
	8	表計算(2)：オートフィル、相対参照と絶対参照		MS-Excelの相対参照、絶対参照を理解する。

授業計画	9	表計算(3)：関数の基礎				MS-Excelで基本的な関数が見える。		
	10	表計算(4)：関数の応用				MS-Excelで関数の入れ子が見える。		
	11	表計算(5)：データ集計				MS-Excelで基本的なデータ集計ができる。		
	12	プレゼンテーション(1)：箇条書き、図形描画、アニメーション				MS-PPTの基本的な操作ができる。		
	13	プレゼンテーション(2)：スライド制作				MS-PPTで目的に合ったスライドを制作できる。		
	14	Word、Excel、PowerPointを使った最終課題：情報収集とデータ分析				Officeを総合的に活用できる。		
	15	Word、Excel、PowerPointを使った最終課題（続き）：情報の整理と表現				Officeを総合的に活用できる。		
授業方法 (回数)	対面授業	0	オンライン授業（リアルタイム）	0	オンライン授業（オンデマンド型）	15		
必要な 受講環境	インターネットに接続したPCが必要である。 重要 原則manabaによるオンライン授業（オンデマンド型）で実施するが、対面やオンライン授業（リアルタイム型）で実施する回がある場							
予習	毎週最低2時間は、パソコンに向かい、次の授業で行う操作の確認をすること。特にパソコンに不慣れな人は、日常生活の中で積極的にパソコンを使用する機会を増やし、情報処理教室の開放教室や自宅などで予習をすること。							
復習	授業内で習得できなかった内容について、パソコンを使用して十分に復習しておくこと。 毎週最低2時間は、パソコンに向かい、授業で行った操作、作業をもう一度行うこと。							
成績評価	試験(%)	0	レポート(%)	0	授業態度(%)	100	その他(%)	0
成績評価 上記以外 (その他の内容等)	授業態度の内訳は、以下である。 授業への積極的な参加 40%							
教材	著者名		書籍名		出版社		出版年	ISBN/ISSN
教材(その他)	使用する教材を、初回の授業で担当教員が伝える。							
参考文献等	著者名		書籍名		出版社		出版年	ISBN/ISSN
参考文献等 (その他)	授業内で適宜紹介する。							
先生からの メッセージ	この科目は「見つめる科目」です。パソコンを自ら操作する中で色々な発見をしてください。 課題などの取り組みに関する総評はmanabaで行います。							
参考ホーム								

授業科目名	データサイエンスA				
科目区分	共通科目				
必修・選択区分	選択			単位数	2
開設学科	全学共通科目（大学）／日本語日本文学科2025／日本語日本文学科2024／日本語日本文学科2023／日本語日本文学科2022／日本語日本文学科2021／日本語日本文学科2020／日本語日本文学科2017／英語文化コミュニケーション学科2025／英語文化コミュニケーション学科2024／英語文化コミュニケーション学科2023／英語文化コミュニケーション学科2022／英語文化コミュニケーション学科2021／英語文化コミュニケーション学科2020／英語文化コミュニケーション学科2019／				
学年	1年生	学期	春学期	開講年度	2025
担当者	三橋 大輔				

授業の到達目標	現代社会におけるデータサイエンスの重要性について理解し、統計や確率についての基礎的な知識を身につける。また、コンピュータを利用したデータ分析技法を身につけ、データから正しく情報を読み取る能力を得ることを目標とする。
---------	---

授業概要	データサイエンスの社会的意義および、その背景にある統計学の考え方について講義し、実際にデータを用いた分析を実践する。データサイエンスでは、経験的なデータから情報の傾向や性質を数学的に導き出し、まだ起きていない未来についての予測や、データの分類を行う。また、前提となる統計学は多くの科学分野で分析のためのツールとして利用されており科学的方法論の基礎ともなっている。この講義では、データサイエンスの数学的な側面を扱わず、あくまでもツールとして利用する立場から説明を行う。講義では表計算ソフトウェア Excel を用いた演習を用意している。演習には時間を要するため、精力的に予習・復習に励むように心がけること。
------	--

授業計画		各回の授業概要	AL	学びのポイント
	1	ガイダンス：講義の受け方・データサイエンスとは？		現代社会におけるデータサイエンスの重要性を紹介する。また、データサイエンスを学ぶ上で最低限必要な高校レベルの数学知識を復習する。 予習2時間、復習2時間
	2	Excel 基礎		統計分析を行うためのツールとして Excel の操作方法の基礎を説明する。基本的な操作方法を理解すること。 予習2時間、復習2時間
	3	記述統計：尺度水準、代表値		データの特徴を知るための指標として代表値を説明する。平均値、中央値、最頻値の求め方とその違いをよく理解すること。 予習2時間、復習2時間
	4	記述統計：散布度		データのばらつきを知るための指標として散布度を説明する。範囲、分散、標準偏差の求め方を理解すること。 予習2時間、復習2時間
	5	記述統計：確率分布、正規分布		代表的な確率分布である正規分布について説明する。 予習2時間、復習2時間
	6	記述統計：標準化		正規分布を用いた標準化の考え方と、その応用について説明する。 予習2時間、復習2時間
	7	推測統計：推測統計の考え方		推測統計の基礎的な考え方を説明する。 予習2時間、復習2時間
	8	推測統計：区間推定		母集団の性質を推定する方法として区間推定について説明する。 予習2時間、復習2時間

授業計画	9	推測統計：正規分布を用いた検定		正規分布を用いた検定を説明する。 予習2時間、復習2時間				
	10	推測統計：統計的仮説検定の考え方		統計的仮説検定の考え方について説明する。 予習2時間、復習2時間				
	11	推測統計：t検定		統計的仮説検定の事例として、t分布を用いた検定を説明する。 予習2時間、復習2時間				
	12	記述統計：相関		2つの変数の関係性を示す指標として相関係数を説明する。また、相関係数の読み取り方について説明する。 予習2時間、復習2時間				
	13	推測統計：回帰分析		回帰分析を用いた予測について説明する。 予習2時間、復習2時間				
	14	推測統計：重回帰分析		重回帰分析の方法と、データの読み取り方について説明する。 予習2時間、復習2時間				
	15	まとめ・試験		まとめと試験を行う。 予習2時間、復習2時間				
授業方法 （回数）	原則すべての回で対面							
オンライン授業 実施有無	無							
必要な 受講環境	Windows版の Excel を利用するため、予習復習にはそれぞれのソフトウェアを各自のPCにインストールすることが必要となる。Mac 版も同ソフトウェアが存在するが、インターフェースが異なるため利用する場合には読み換えて利用すること。							
予習	講義は教科書に沿って進行するため、講義前に該当する箇所に目を通すようにしてください。							
復習	教科書の練習問題を用いて復習するようにしてください。							
成績評価	試験 (%)	40	レポート (%)	60	授業態度 (%)		その他 (%)	
成績評価 上記以外 （その他の内容等）	複数回の課題を出します。課題の合計点（60点）と試験の成績（40点）によって評価します。							
教材	著者名		書籍名		出版社		出版年	ISBN/ISSN
	荒川俊也		『Excelによるやさしい統計解析』		オーム社		2020	9784274226120
教材(その他)								
参考文献等	著者名		書籍名		出版社		出版年	ISBN/ISSN
	東京大学教養学部統計学教室		『統計学入門』		東京大学出版会		1991	9784130420655
	北川源四郎、竹村彰通（編）内		『教養としてのデータサイエンス』		講談社		2024	9784065379394
参考文献等 （その他）								
先生からの メッセージ	見つける科目：統計学は数値情報から意味を発見する学問であり、同時にツールでもあります。統計的な知識と技術を身につけ、それぞれの分野で「見つける」ためのツールとして役立てていただきたいと思います。							
参考ホーム								

授業科目名	A I と社会 A			
科目区分	共通科目			
必修・選択区分	選択		単位数	2
開設学科	全学共通科目（大学） / 日本語日本文学科2025 / 日本語日本文学科2024 / 日本語日本文学科2023 / 日本語日本文学科2022 / 日本語日本文学科2021 / 日本語日本文学科2020 / 日本語日本文学科2017 / 英語文化コミュニケーション学科2025 / 英語文化コミュニケーション学科2024 / 英語文化コミュニケーション学科2023 / 英語文化コミュニケーション学科2022 / 英語文化コミュニケーション学科2021 / 英語文化コミュニケーション学科2020 / 英語文化コミュニケーション学科2019 /			
学年	1 年生	学期	春学期	開講年度 2025
担当者	三橋 大輔			

授業の到達目標	本講義では、AI 技術が現代社会に与える影響を理解し、検討することを目指す。AI の基本技術、技術史、利活用、倫理的課題、法的な対応について概観し、その未来の可能性について検討する。受講生には講義を通して、AI 技術に関する諸問題について自らの意見を持つことを期待する。
---------	---

授業概要	本講義では、AI の技術的側面とその社会的影響について概説する。AI が引き起こす倫理的問題や社会の変化を、具体事例を紹介しながら、様々な観点から検討する。AI 技術を十分に理解するためにはデータサイエンス、数学、情報科学についての広範な知識が必要であるが、本講義では文系学生に向け、なるべく数式などを用いずに説明を行う。
------	---

授業計画		各回の授業概要	AL	学びのポイント
	1	オリエンテーション、AI と社会の関係		AI 技術とは何か、そして現代社会における役割と可能性について概観する。予習として教科書第1章を読んでおくこと。以降、予習復習に関しては下記の「予習」、「復習」を参照すること。 予習2時間、復習2時間
	2	AI の技術史		AI の技術史について説明する。 予習2時間、復習2時間
	3	機械学習		機械学習および、そのアルゴリズムについて説明する。 予習2時間、復習2時間
	4	ニューラルネットワークと深層学習		ニューラルネットワークおよび深層学習について説明する。 予習2時間、復習2時間
	5	AI の公平性と透明性		AI における公正性の確保と透明性の重要性を検討する。 予習2時間、復習2時間
	6	生成AI		生成AI の技術的な背景と利活用、および社会的な影響について説明する。 予習2時間、復習2時間
	7	アルゴリズムと倫理		アルゴリズムが生み出すバイアス（偏見）、差別、プライバシー侵害などの問題点について検討する。 予習2時間、復習2時間
	8	AI の社会的責任		AI 技術によって生み出される社会の分断や差別の助長について理解し、その社会的責任について検討する。 予習2時間、復習2時間

授業計画	9	AIとインタフェース		人がAIを活用するうえでのインタフェースデザインを考える。 予習2時間、復習2時間
	10	AIと人間らしさ		AIと人間らしさについて、心理学的哲学的側面から検討する。 予習2時間、復習2時間
	11	現代社会におけるAIの利活用		AIを活用する社会のあり方について実例などを交えながら検討する。 予習2時間、復習2時間
	12	AIガバナンス		AIを社会で活用するうえで、そのガバナンスをどうすべきかを考える。 予習2時間、復習2時間
	13	AIとリスクマネジメント		AIによってもたらされるリスクとその対応、そしてAIを活用する上での責任について考える。 予習2時間、復習2時間
	14	AI技術と未来への展望		AIによって未来の社会はどのように変貌するかを予測し、よりよい社会にするにはどうすべきかを考える。 予習2時間、復習2時間
	15	定期試験		
授業方法 (回数)	原則すべての回で対面			
オンライン授業 実施有無	無し			
必要な 受講環境				
予習	毎回、教科書の該当するページを読んでから受講すること。それぞれの回の該当ページについては第1回で説明する。(2時間程度)			
復習	講義中に配布した資料を再読し、授業時に紹介したWebサービスや分析手法などを自身で確認すること。(2時間程度)			
成績評価	試験(%)	100	レポート(%)	
成績評価 上記以外 (その他の内容等)				
教材	著者名	書籍名	出版社	出版年
	江間有沙	『絵と図でわかる AIと社会』	技術評論社	2021
教材(その他)				
参考文献等	著者名	書籍名	出版社	出版年
	マイケル・ウォルドリッジ	『AI技術史 考える機械への道と』	インプレスブックス	2022
	ロナルド・T・ニューゼル	『数式なしでわかるAIのしくみ』	マイナビ出版	2024
参考文献等 (その他)				
先生からの メッセージ	見つめる科目：本講義では、AI についてその技術的背景から、社会での利活用とその影響について説明します、AI を理解不能なものとして見るのではなく、その仕組みを理解したうえでその功罪を見つめていただきたいと思います。			
参考ホーム				

全学共通科目

1 全学共通科目の特色

全学共通科目は、本学の学生であれば、どの学部・学科に所属しているかに関係なく「一定水準の知識・技能・教養」が備わるよう、必修科目である「さがみ総合講座」「基礎教育講座」「コンピュータリテラシー」を中心に、体系的に履修できるように配置されています。

2 教育目標

全学共通科目は、大学での学習の基本となる思考力や基礎的なリテラシーの修得、および大学生に必須の社会的な教養の涵養という目的を持って編成されており、在学中に専攻する専門教育とも深く関連しています。

社会や企業などで大学生に求められている「自分で問題を発見し、解釈していく力。自分の考えを的確に表現し、伝達する力。具体的に目標を定め、行動する力。」は、まさに本学のスローガンである「見つめる人になる。見つける人になる。」に通じるところです。これらの能力をバランスよく身につけるためにも、専門教育との関連を意識しながら、全学共通科目を計画的に履修することを推奨します。

3 カリキュラムの趣旨と構成

■ 基礎科目（必修）

「さがみ総合講座」は、建学の精神、本学の歴史などの知識を修得し、相模女子大学の学生として、学部・学科を問わず身につけるべき基礎知識や教養、発想力を学びます。さらに女性の働き方や生き方の現状と、女性をめぐる様々な問題について理解し、将来のキャリアについて考える入口となる科目です。

「基礎教育講座」は、大学での学習の基本を理解することを目的として、学科ごとに受講します。大学入学後の導入教育として位置づけており、今後4年間の学習に必要な理解力・表現力の基礎を固め、基礎的なコミュニケーション力を涵養します。また各学科の専門教育に必要な基礎学力を補強し、自立的な学習を推進するため、演習形式で行われます。少人数のゼミ形式を採用する学科も多いことが特徴です。

「コンピュータリテラシー」では、ICTが私たちの生活に密着していることを正しく理解し、これからのデジタル社会の基礎的な素養としてのネットワークの仕組み・コンピュータ操作・データの活用を習得することを目指します。

■ 教養科目

人文科学、自然科学、社会科学の各分野から構成される科目群です。これらの科目は、豊かな人間性を育成し、専門分野を越えた幅広い視野を広げ、知性を深めることを目的としています。

■ 発想・実践科目

実践発想・実践科目は、社会の中で生きていく上で必要なさまざまなスキルや知識、心構えを学ぶ科目や、社会・地域貢献活動に関わる意義などを学ぶ科目および、それらの理論を実装し実践に取り組む科目で構成されます。全学共通科目や専門教育科目を履修して修得した知識を実際に活用し、将来のキャリアを考え、社会で活躍するための能力を獲得することを目的としています。教室外や学外に出て、企業や行政、非営利組織の方々と一緒に活動する機会も含まれます。

■ キャリア支援科目

キャリア教育、就職対策にとどまらず、社会人として必要な基礎力を養成することを目的としています。入学時から自分の将来を見つめ、どのような人間として社会に出て行くかについて考え、構想するための科目です。また、3年生以上を対象に、SPI対策を含む実践的な就職活動支援科目も展開します。

■ 健康・スポーツ科目

心身の健康を保持増進し、豊かな社会生活を実現するための実践と理論を学ぶ科目を展開しています。講義科目と実技科目に分かれており、実際に体を動かす実技科目では、各種運動の体力・運動特性を学び、それに必要な技能を身につけるとともに、生涯スポーツとして自身に合った運動を見つける機会を提供しています。

■ 語学科目

語学科目は、コミュニケーションを行うための実用的な技術の習得を目的とするとともに、母語とは異なる言語感覚や、その言語による思考形式を通して、異文化を理解する道を拓きます。本学の語学科目は、英語、中国語、韓国/朝鮮語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、日本語の各語学科目及び認定科目である「海外研修」から構成されています。また、外国の多様な文化を学ぶことができるような講義科目も展開し、多角的に国際感覚を身につけていくことができるようにしています。

4 卒業要件

全学共通科目の卒業要件は以下のとおりです。記載されている単位数は各科目群における最低履修単位数を示しています。それ以上の単位を修得してください。

授業科目区分	基礎科目	教養科目	発想・実践科目	キャリア支援科目	健康・スポーツ科目	語学科目*	合 計
単位数	6	4	－	2	1	4	24 (管理栄養学科は22)

※語学科目は同一言語のⅠ及びⅡを履修することが卒業要件となります。

履修例1.「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」「中国語Ⅰ」「ドイツ語Ⅰ」合計4単位

履修例2.「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱ」「韓国語Ⅲ」「韓国語Ⅳ」合計4単位

5 履修について

全学共通科目は自身の学習計画に沿って1～4年次までに履修してください。なお、基礎科目は、全学生が1年次で履修しなければなりません(各2単位・計6単位)。

■ クラス編成について

- 基礎科目は指定されたクラスを受講してください。
- 教養科目、発想・実践科目、キャリア支援科目、健康・スポーツ科目は基本的に春・秋学期に開講されていますが、同一科目を重複して履修することはできません。
- 履修希望者が定員を超える場合には抽選を行い、受講者を決定します。
- 健康・スポーツ科目の実技科目は複数クラス開講され、それぞれ人数制限があります。種目内容についてはシラバスを確認してください。また受講希望者は、定期健康診断(4月実施)を必ず受診してください。
- 語学科目の演習科目には、学習効果を高めるために人数制限があります。

■ 履修前提条件について

下記の科目については履修するための前提条件があります。前提条件を満たさない場合には履修登録ができません。

授業科目名	授業形態	単位	履修前提条件
中国語Ⅱ	演習	1	「中国語Ⅰ」単位修得済
中国語Ⅲ	演習	1	「中国語Ⅱ」単位修得済
中国語Ⅳ	演習	1	「中国語Ⅲ」単位修得済
韓国／朝鮮語Ⅱ	演習	1	「韓国／朝鮮語Ⅰ」単位修得済
韓国／朝鮮語Ⅲ	演習	1	「韓国／朝鮮語Ⅱ」単位修得済
韓国／朝鮮語Ⅳ	演習	1	「韓国／朝鮮語Ⅲ」単位修得済
フランス語Ⅱ	演習	1	「フランス語Ⅰ」単位修得済
フランス語Ⅲ	演習	1	「フランス語Ⅱ」単位修得済
ドイツ語Ⅱ	演習	1	「ドイツ語Ⅰ」単位修得済
ドイツ語Ⅲ	演習	1	「ドイツ語Ⅱ」単位修得済
イタリアⅡ	演習	1	「イタリア語Ⅰ」単位修得済
スペイン語Ⅱ	演習	1	「スペイン語Ⅰ」単位修得済
問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅱ	演習	1	「問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅰ」単位修得済

■ 単位認定科目について

各種の検定試験、資格試験で所定の成果を修めた場合は、関連する科目の単位を認定します。資格の証明書および印鑑を持参して、学修・生活支援課で手続きすることができます。

ただし、「資格有効期限」に留意してください。

- ① 検定試験の資格有効期限は、申請時より36ヶ月以内に取得したものとします。
- ② 資格試験の有効期限は資格発行団体により異なりますので、それに従ってください。

なお、卒業年次生は、卒業年度の1月末までに申請してください。

●英語

検定試験名・レベル	認定科目(単位)	
実用英語技能検定(英検):2級以上	英語Ⅰ(1)※	英語Ⅱ(1)※
英検S-CBT:2級以上	英語Ⅰ(1)※	英語Ⅱ(1)※
国際コミュニケーション英語能力テスト(TOEIC Listening & Reading Test):520以上	英語Ⅰ(1)※	英語Ⅱ(1)※
Test of English as a Foreign Language (TOEFL):iBT53以上	英語Ⅰ(1)※	英語Ⅱ(1)※

※いずれか一方を申請時に選択(1単位のみ認定可)。

●中国語

検定試験名・レベル	認定科目(単位)	
中国語検定:準4級	中国語Ⅰ(1)	—
中国語検定:4級以上	中国語Ⅰ(1)※	中国語Ⅱ(1)※
漢語水平考試(HSK):1級	中国語Ⅰ(1)	—
漢語水平考試(HSK):2級以上	中国語Ⅰ(1)※	中国語Ⅱ(1)※
中国語コミュニケーション能力検定(TECC):200~279	中国語Ⅰ(1)	—
中国語コミュニケーション能力検定(TECC):280以上	中国語Ⅰ(1)※	中国語Ⅱ(1)※

※いずれか一方を申請時に選択(1単位のみ認定可)。

●韓国／朝鮮語

検定試験名・レベル	認定科目(単位)	
韓国語能力試験:TOPIKⅠ(1級)	韓国／朝鮮語Ⅰ(1)	—
韓国語能力試験:TOPIKⅠ(2級)以上	韓国／朝鮮語Ⅰ(1)※	韓国／朝鮮語Ⅱ(1)※
「ハングル」能力検定試験:5級	韓国／朝鮮語Ⅰ(1)	—
「ハングル」能力検定試験:4級以上	韓国／朝鮮語Ⅰ(1)※	韓国／朝鮮語Ⅱ(1)※

※いずれか一方を申請時に選択(1単位のみ認定可)。

●ドイツ語

検定試験名・レベル	認定科目(単位)	
ドイツ語技能検定試験(独検):5級	ドイツ語Ⅰ(1)	—
ドイツ語技能検定試験(独検):4級以上	ドイツ語Ⅰ(1)※	ドイツ語Ⅱ(1)※
ゲーテ・ドイツ語検定試験:A1以上	ドイツ語Ⅰ(1)※	ドイツ語Ⅱ(1)※
オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験:A1以上	ドイツ語Ⅰ(1)※	ドイツ語Ⅱ(1)※

※いずれか一方を申請時に選択(1単位のみ認定可)。

●フランス語

検定試験名・レベル	認定科目(単位)	
実用フランス語技能検定試験(仏検):5級	フランス語Ⅰ(1)	—
実用フランス語技能検定試験(仏検):4級以上	フランス語Ⅰ(1)※	フランス語Ⅱ(1)※
デルフ・フランス語資格試験(DELF):A1以上	フランス語Ⅰ(1)※	フランス語Ⅱ(1)※
フランス語学カテスト(TCF):A1以上	フランス語Ⅰ(1)※	フランス語Ⅱ(1)※
フランス語能力認定試験(TEF):69以上	フランス語Ⅰ(1)※	フランス語Ⅱ(1)※

※いずれか一方を申請時に選択(1単位のみ認定可)。

●イタリア語

検定試験名・レベル	認定科目(単位)	
実用イタリア語検定:5級	イタリア語Ⅰ(1)	—
実用イタリア語検定:4級以上	イタリア語Ⅰ(1)※	イタリア語Ⅱ(1)※
イタリア語検定試験(PLIDA):A1初級Ⅰ	イタリア語Ⅰ(1)	—
イタリア語検定試験(PLIDA):A2初級Ⅱ以上	イタリア語Ⅰ(1)※	イタリア語Ⅱ(1)※

※いずれか一方を申請時に選択(1単位のみ認定可)。

●スペイン語

検定試験名・レベル	認定科目(単位)	
スペイン語技能検定:6級	スペイン語Ⅰ(1)	—
スペイン語技能検定:5級以上	スペイン語Ⅰ(1)※	スペイン語Ⅱ(1)※
外国語としてのスペイン語検定試験(DELE):A1(入門)	スペイン語Ⅰ(1)	—
外国語としてのスペイン語検定試験(DELE):A2(初級)以上	スペイン語Ⅰ(1)※	スペイン語Ⅱ(1)※

※いずれか一方を申請時に選択(1単位のみ認定可)。

	授 業 科 目 名	授業 形態	単位	卒業 単位	開講 セメスター	科目ナンバリング	履修単位数 制限除外 科目	備 考
基礎科目	さがみ総合講座	講義	2	必修	1	XAFOS101		
	基礎教育講座	講義	2	必修	1	XAFOS102		
	コンピュータリテラシー	演習	2	必修	1	XAFOS103		
教養科目	法学	講義	2	4 単位必修	1	XAGEE101		
	日本国憲法	講義	2		1	XAGEE102		
	倫理学	講義	2		1	XAGEE103		
	経済学	講義	2		1	XAGEE104		
	社会学	講義	2		1	XAGEE105		
	心理学	講義	2		1	XAGEE106		
	言語学	講義	2		1	XAGEE107		
	文学	講義	2		1	XAGEE108		
	諸外国の社会と文化	講義	2		1	XAGEE109		
	メディアと文化	講義	2		1	XAGEE110		
	アート	講義	2		1	XAGEE111		
	情報処理概論	講義	2		1	XAGEE112		
発想・実践科目	地域から学ぶ知の実践	講義	2		1	XACRP101		
	社会貢献・地域連携	講義	2		1	XACRP102		
	地域協働活動	実習	1		3	XACRP201		
	さがみ発想講座	講義	2		1	XACRP103		
	問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅰ	演習	1		5	XACRP301		
	問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅱ	演習	1		7	XACRP401		
	ジェンダー論	講義	2		1	XACRP104		
	くらしと文化	講義	2		1	XACRP105		
	日本の社会と文化	講義	2		1	XACRP106		
	データサイエンス	講義	2		2	XACRP107		
	AI と社会	講義	2		1	XACRP108		
	情報リテラシー	演習	1		2	XACRP109		
	書道	講義	2		1	XACRP110		
キャリア支援科目	キャリア・プランニング	講義	2	2 単位必修	1	XACAS101		
	ビジネス実務総論	講義	2		1	XACAS102		
	SPI 対策講座	講義	2		5	XACAS301		
	就職支援講座	講義	2		5	XACAS302		
健康・スポーツ科目	ウエルネス	講義	2	1 単位必修	1	XAHS101		
	身体の科学	講義	2		1	XAHS102		
	球技スポーツ	実技	1		1	XAHS103		バレーボール、バスケットボール、フットサル、フラッグフットボール
	ラケットスポーツ	実技	1		1	XAHS104		テニス、バドミントン、卓球
	健康スポーツ	実技	1		1	XAHS105		ダンス、合気道、ヨガ
	シーズンスポーツ	実技	1		1	XAHS106	○	宿泊を伴う屋外スポーツ

	授 業 科 目 名	授業 形態	単位	卒業 単位	開講 セメスター	科目ナンバリング	履修単位数 制限除外 科目	備 考
語学科目	言語と異文化	講義	2	4 単位必修	1	XALCC101		
	英語Ⅰ	演習	1		1	XAENG101		
	英語Ⅱ	演習	1		1	XAENG102		
	英語Ⅲ	演習	1		1	XAENG103		
	英語Ⅳ	演習	1		1	XAENG104		
	韓国／朝鮮語Ⅰ	演習	1		1	XAKOR101		
	韓国／朝鮮語Ⅱ	演習	1		2	XAKOR102		
	韓国／朝鮮語Ⅲ	演習	1		3	XAKOR201		
	韓国／朝鮮語Ⅳ	演習	1		3	XAKOR202		
	中国語Ⅰ	演習	1		1	XACH101		
	中国語Ⅱ	演習	1		2	XACH102		
	中国語Ⅲ	演習	1		3	XACH201		
	中国語Ⅳ	演習	1		3	XACH202		
	フランス語Ⅰ	演習	1		1	XAFRE101		
	フランス語Ⅱ	演習	1		2	XAFRE102		
	フランス語Ⅲ	演習	1		3	XAFRE201		
	ドイツ語Ⅰ	演習	1		1	XAGER101		
	ドイツ語Ⅱ	演習	1		2	XAGER102		
	ドイツ語Ⅲ	演習	1		3	XAGER201		
	イタリア語Ⅰ	演習	1		1	XAITA101		
	イタリア語Ⅱ	演習	1		2	XAITA102		
	スペイン語Ⅰ	演習	1		1	XASPA101		
	スペイン語Ⅱ	演習	1		2	XASPA102		
	海外研修Ⅰ	—	2		—	XAIOS101		
	海外研修Ⅱ	—	2		—	XAIOS102		外国語研修による認定科目
	海外研修Ⅲ	—	2		—	XAIOS103		
	日本語Ⅰ	演習	1		1	XAJAP101		履修者は日本語を母語としない者に限る
	日本語Ⅱ	演習	1		1	XAJAP102		
卒業必要単位数合計				24 (栄養科学部管理栄養学科は22単位)				

(※) 卒業要件を満たすための履修例

○：英語Ⅰ・Ⅱ、韓国／朝鮮語Ⅰ、ドイツ語Ⅰ

○：英語Ⅰ・Ⅱ、韓国／朝鮮語Ⅰ・Ⅱ

×：英語Ⅰ、韓国／朝鮮語Ⅰ、ドイツ語Ⅰ、フランス語Ⅰ

(注意)

全学共通科目は、春・秋の両学期ともに開講することを基本としていますが、年度によっては科目の開講期がどちらか一方になる場合があります。当年度の授業時間割表やシラバスで確認してください。

履修単位数制限除外科目とは、履修単位数制限(各学期24単位)が適用されない科目です。対象科目は履修登録を行っても登録単位数に算入されません。ただし、単位を修得すると卒業要件に定められた区分の修得単位数に算入されます。

大学等名	相模女子大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和6年度

取組概要

【目的・プログラムで身に付けられる能力】

本プログラムは、学生が数理・データサイエンス・AIに関心を持ち、適切に理解し、専門分野での実践的なデータ活用能力を育成することを目的とする。単独の科目として完結するのではなく、各学科の専門教育と体系的に連携し、学際的な視点からの課題解決能力を養う。

具体的には、メディア情報学科や社会マネジメント学科における社会調査、人間心理学科における心理学実験・調査、管理栄養学科や健康栄養学科における栄養統計学と接続し、データ収集・解析・可視化・統計的推論などのスキルを体系的に習得できる学習設計を行っている。

また、本学が強みとする地域連携活動を活かし、自治体や地域企業との協働による実践的なデータ分析プロジェクトを実施し、実社会の課題解決に貢献できる人材を育成する。これにより、データサイエンスの知識を学内にとどめず、社会実装へと展開するための実践的な機会を提供し、学生がデータ駆動型の意思決定を行える能力を身につけることを目指す。

【修了要件】

全学共通科目必修の「コンピュータリテラシー」（半期2単位）及び選択必修の「データサイエンス」（半期2単位）・「AIと社会」（半期2単位）の修得をもって、プログラムの修了要件としている。「数理の科学」「コンピュータリテラシー」「データサイエンス」「AIと社会」の内容は「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム」(数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)に準拠しており、各回、授業支援ツール(LMS)を用いて事前・事後学修の支援をしている。

【実施体制】

- ◆プログラムの運営責任者：副学長（教育担当）
- ◆プログラムを改善・進化させるための組織・委員会等：共通教育機構運営委員会
- ◆プログラムの自己点検・評価を行う組織・委員会など：共通教育機構運営委員会

【科目構成】

- | | |
|----------------|-----------|
| 1. コンピュータリテラシー | } 各2単位 必須 |
| 2. データサイエンス | |
| 3. AIと社会 | |

